

EMS ニュースの第 22 号をお届けします。

救急隊員の就業時間を考えるために、「就業時間を制限するためのケーススタディー」(Making the Case for EMS Work Hour Restrictions By Mark E.A. Escott, MD, MPH, FACEP)を取り上げました。Dr. Escott は、ある救急隊員の勤務を例に上げ、時間外を含む長時間勤務が 7 日間連続した状態で、緊急車両を運転し、さらに重要な、現場で救急活動の方針を決定し、正確に実行するキャパシティが、救急隊員にあるのかどうかに関心を寄せました。



Journal of
Emergency Medical
Services

Making the Case for EMS Work Hour Restrictions

救急隊員の勤務時間制限を考えた ためのケーススタディー



某救急隊員(2008年当時24歳)は勤務のシフトを終え帰宅途中で疲労で居眠りし運転を誤ってしまった。車は堤防を10m落下、救出されるまでに一時意識不明だった。彼は脊椎数ヶ所と手を骨折し裂傷を負った。幸いにしてどこにも致命的な損傷はなく回復できた。その後、大学、続いて医科大学を終了し、救急医療の研修医としてスタートすることができた。

皮肉なことには、研修医としての彼の勤務時間は2003年以來、ACGME*により厳しくコントロールされている。過去に研修医には慣習的に週120時間を超えての驚異的な長時間勤務を課していたが、ACGMEのガイドラインにより、勤務時間を制限された。

現在の研修医の勤務時間は、週当たり80時間を超えてはならず、単一シフトでは6時間の引継ぎ時間を含めて24時間を超えてはならない。初年度研修医はさらに勤務時間を制限され連続16時間を超えてはならない。救急研修医の場合はやや違って、救急患者の特殊性から単一シフト当たり12時間さらに週あたり60時間に制限されている。このような突然の変化はなぜ起こったか。前述の救急隊員のように過重なシフト勤務後に運転事故を起こした報告が続いていた。睡眠をとれずに16時間以上連続で勤務し、早朝の医療エラーが数多く報告されていた。過労のあまり患者の治療中に寝てしまった外科研修医の例さえある。

では、EMSでは、なぜに24時間勤務が普通に行われ、さらに48時間とか72時間勤務さえも行われているのか。原因の一つには、EMSの制度に起因し、行動パターンを変えることの難しさにあると考えられる。

多くのEMSは開設時には小規模で出動回数も少なかった。よって、合間に休息/睡眠する時間を持って、24時間シフ

* ACGME(Accreditation Council for Graduate Medical Education)= 医師卒後臨床研修プログラムを評価・認証する民間の非営利団体

トも可能だった。ところが、次第に出動頻度が増加し、休息できる時間が無くなってきた。それにもかかわらず、シフトルールを改定してこなかった。

任務中の救急隊員の勤務時間超過による懸念材料を分析してみると、2つの問題に行き着く。

一つは救急車を安全に操縦する能力、もう一つは様々な傷病者に対し、正確に観察・評価し応急処置を実行できる能力である。

乗り物の操縦についていえば、航空機パイロット、船舶職員、トラックドライバー、電車運転士に対して国で定めた規則と、多くの共通点や類似点がある。パイロットにおいては24時間中に8時間まで、船舶職員にあっては15時間と定まっているようだ。

そして、救急活動については、前述した救急研修医の制限時間を参考にすべきだ。

これら2つのパターンを考慮すると、シフト時間は理想的には8~12時間/連続16時間までとし、シフト中に傷病者に対応する救急隊員には強制的に休憩時間を設けるべきだ。

これまでの議論をまとめると、医師と同様に、EMS救急隊員も、超過勤務時間から派生する各種の危険から保護する時期に来ているということだ。

もうひとつ重要なことは、EMS救急隊員は疲労のあまり過ちを侵すかも知れないということだ。

どんな理由があろうとも、EMS救急隊員は患者を守らねばならない。疲労と過失との相関関係を評価し、改正すべきだろう。他の産業の過ちから学ばねばならず、救急医も、EMS救急隊員の利害関係者として、勤務時間制限について発言すべきだ。

(JEMS September 2015, P.18)

[Making the Case for EMS Work Hour Restrictions](#) より抄訳)

JPTEC ガイドブック 改訂第2版に掲載

サムチェストシール

バルブ付き



スタンダード



大きな特長は、バルブがドームになっていて、強固に作られているために、たとえ上に毛布や物が載っても、潰れずに弁の役割を続けることだ。

バルブ
スタンダード
1枚づつ



コンボ
10x10cm

止血材 キトサム 100



原料のキトサンだけ(100%)で作られている。創傷を覆うキトサンの量が多く、止血効果が高い。

あとがき

米国の救急サービスは民営ということもあり、長時間勤務が普通のようなです。長時間勤務の疲労により、業務にも影響をきたし、さらには、勤務後の帰宅途中、居眠り運転で、事故を起こすケースもあるようです。日本の救急隊員は大丈夫でしょうか？

ご意見や感想は下記まで

担当：高橋

Email: takahashi@accord-intl.com /

FAX: 03-3299-6752

代表取締役 山本博太

アコードインターナショナル株式会社

151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷1-9-4-1005

TEL:03-3299-6751 FAX:03-3299-6752

e-mail: Accord@accord-intl.com http://www.Accord-INTL.com

